

20032

当院での CROSSER 使用経験

【目的】CROSSER はカテーテル先端が 2 万サイクル毎秒で振動し、キャビテーションの効果で CTO を貫通するデバイスで、2014 年 4 月から臨床使用可能となった。当院で CROSSER を使用した症例を検討しその有用性を報告する。【方法】対象は 2015 年 3 月～6 月までに当院にて CROSSER を用いて EVT を施行した SFA-CTO 連続 6 症例。カルテを後ろ向きに参照して検討した。【結果】患者背景は平均年齢 78.7 歳、男性:4 例(66.7%)、DM:4 例 66.7%、跛行肢 6 例(100%)であった。平均病変長 150mm、平均手技時間 1 時間 22 分、手技成功率は 100%であった。ワイヤー先行症例が 3 例(50%)、CROSSER 作動時間は平均 124 秒であった。治療後の ABI は平均 0.52 改善していた。手技関連合併症はなかった。【結論】CROSSER は SFA-CTO のワイヤリングに有用であり安全に使用できた。真腔をとらえることが困難な場合は、適宜 IVUS ガイドに切り替える必要があると思われた。また、機器のセットアップに時間を要するため、CROSSER のシステムに習熟しておく必要がある。